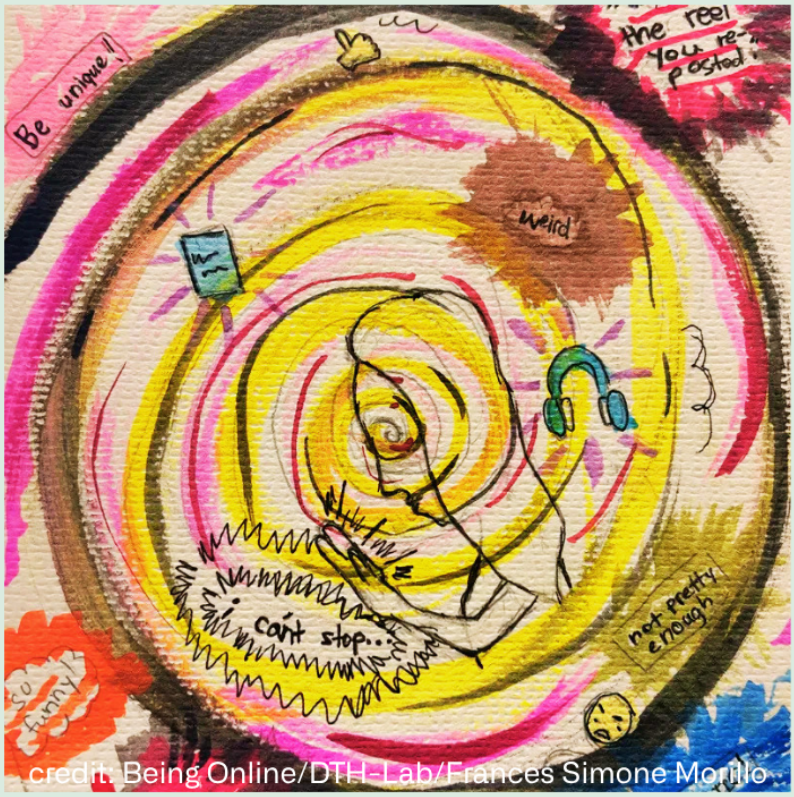
THE LANCET

DIGITAL TRANSFORMATIONS FOR HEALTH LAB
GOVERNING HEALTH FUTURES 2030

『ランセット』シリーズ「健康のデジタル決定要因」

概要



デジタル技術は現在、人々の健康とウェルビーイングを形づくる社会の仕組みや環境に深く組み込まれている。情報へのアクセス、他者とのコミュニケーション、学習、就労、医療の利用、社会参加、自らの生活に関する意思決定など、人々の幅広い営みに影響を及ぼしている。そのため、デジタル技術はもはや、既存の社会システムの中で用いられる単なる手段ではなく、健康を左右する条件そのものの一部となっている。

本『ランセット』シリーズは、健康のデジタル決定要因（digital determinants of health：DDoH）を、デジタル技術を介したインフラ、事業モデル、設計上の判断、情報環境、ガバナンスのあり方が、人々の健康に影響を及ぼす過程として定義する。本シリーズは、デジタル変革が、かつてない速度と規模で健康の決定要因を変容させ、健康を改善する新たな可能性を開く一方で、新たなリスクや不平等も生み出していると論じる。したがって、こうした決定要因を理解し、適切なガバナンスを構築することは、公衆衛生上の極めて重要な優先課題となっている。

本シリーズを構成する3本の論文は、複数の国の研究者からなる学際的なグループによって執筆された。これらの論文は、DDOHを理解し、それに対応するための新たなアプローチを提案するとともに、今後の研究、実践、ガバナンスに向けた意欲的な方向性を示している。

健康のデジタル決定要因を理解するための新たな概念的基盤

本シリーズは、デジタル技術を個々の道具としてだけではなく、健康が生み出される条件を形づくる、より広範な社会技術的秩序の一部として捉えるべきであると論じる。第1論文は、このデジタル技

術を基盤とする社会技術的秩序が、政治的規範、経済論理、デジタルインフラ、社会的および個人的な実践の相互作用を通じて形成されると説明する。これらが相互に作用することで、デジタル技術がどのように設計、導入、利用され、どのような規則の下で運用されるかが定まり、その結果として健康への影響も左右される。

同論文は、現代のデジタルシステムが、従来から認識されてきた健康の決定要因の多くに、ますます大きな影響を及ぼしていることを示す。その影響は、デジタル技術の直接の利用者だけにとどまらない。デジタルインフラ、プラットフォーム、データシステムは今や、制度、市場、公共サービス、社会関係、情報環境を形づくっている。そのため、デジタル変革が健康にもたらす影響は人口集団全体に及び、デジタル技術と直接関わることが少ない人々にも影響し得る。

DDOHの枠組みは、特定の技術だけに目を向けるのではなく、健康への影響を生み出す、より広範なシステムに焦点を移すものである。デジタル変革の影響は、権力関係、商業上の誘因、ガバナンスの仕組み、社会の価値観によって形づくられる。この観点から見れば、デジタルツールやデジタル環境が公衆衛生上の課題となるのは、その利用のされ方だけでなく、その作用を規定する構造的条件にも関わるためである。

現実空間とデジタル空間が融合する世界における子ども・青少年の健康：予防原則に基づく公衆衛生上の対応の必要性

第2論文は、DDOHの枠組みを、現代の公衆衛生において特に議論の分かれる問題の一つに適用する。それは、デジタルメディアの利用が、子どもと青少年の健康およびウェルビーイングに及ぼす影響である。

同論文は、既存の科学的知見が公衆衛生上どのような意味を持ち得るのかを検討するとともに、デジタル環境が若者の健康に及ぼす影響について、依然として十分に解明されていない点を明らかにする。デジタルメディアの利用については、便益と害の双方との関連が報告されているが、さまざまな健康領域において、健康上の好ましくない結果がより多く報告されている。モデルを用いた試算によれば、デジタルメディアの利用と好ましくない結果との関連がわずかであっても、子どもや青少年の間で利用が広く浸透しているため、集団全体では大きな健康負担につながる可能性がある。この試算自体は因果関係を示すものではないが、個人レベルでは小さな影響であっても、集団全体では公衆衛生上の重要な問題となり得ることを示している。

一方、現在得られている科学的知見は、若者がデジタル環境の中で実際に経験していることを十分に捉え切れていない場合が多い。そこには、プラットフォームの設計、アルゴリズムによる推薦システム、データ収集の慣行、人工知能（AI）を用いたツール、商業的な誘因、デジタルメディアが利用される社会的状況から受ける影響が含まれる。その結果、健康への影響を左右すると考えられる重要な仕組みの多くが、依然として十分に解明されていない。

DDOHの枠組みを適用することで、焦点は個人の行動から、若者のデジタル体験を形づくる、より広範なシステムや構造へと移る。デジタルメディアの利用が広く浸透していること、健康上の好ましくない結果との関連が一貫して観察されていること、集団レベルで大きな影響が生じ得ること、脆弱な立場にある集団にリスクが集中していることを踏まえ、同論文は、科学的知見がなお不完全であっても、予防原則に基づく公衆衛生上の対応が必要であると結論づける。

そのため同論文は、測定方法の改善、プラットフォームに関する透明性の向上、研究目的でプラットフォームとそのデータにアクセスできる環境の整備、研究および政策形成への若者の一層の参画、新たに登場する技術の影響をより重視することを求めている。

健康のデジタル決定要因をめぐるガバナンス

第3論文は、デジタル分野における現在のガバナンスが断片化しており、デジタル変革が健康にもたらす影響に十分対応できていないと論じる。デジタル環境を形づくる要因の多くは、従来の公衆衛生機関だけでは対応できない領域に存在する。その一方で、ガバナンスに関する責任は、複数の部門や管轄主体に分散している。その結果、説明責任と監督に大きな空白が生じている。

同論文は、公衆衛生の価値に根ざしたガバナンスのあり方を提案する。個人の責任や、既に表面化した被害への対処に重点を置くのではなく、デジタル環境を形づくる上流の決定要因に対処すべきであるとする。これらには、デジタルインフラ、プラットフォームの構造、データ管理の仕組み、商業上の誘因、説明責任を確保する仕組みが含まれる。

特に重視されるのは、子どもと若者の健康増進とオンライン上の安全確保である。子どもや若者は、発達上極めて重要な時期にデジタル環境にさらされ、他の集団よりも大きなリスクに直面する可能性がある。したがって同論文は、デジタルシステムが健康とウェルビーイングを守る形で設計・管理されるよう、保護措置の強化、透明性の向上、説明責任の徹底、規制を実施する能力の向上を求めている。

また、デジタル技術が国境を越えて広がる性質を持つことを踏まえ、同論文は、国際協力と世界的なガバナンスを強化する必要性も指摘する。DDOHへの対応には、各国政府、国際機関、研究者、市民社会、民間部門による協調した行動が必要である。その一環として、健康分野におけるデジタル化とAIによる変革のガバナンスに関する、世界保健機関（WHO）の枠組み協定の策定を提唱している。

結論

本シリーズ全体を通じて、一つの共通した結論が示されている。現在のデジタル技術を基盤とする社会技術的秩序は、世界の公衆衛生に構造的なリスクをもたらしているが、意図的な取り組みによって変えていくことができる。

健康のデジタル決定要因という概念は、現在の秩序がどのように形成されてきたのか、また、それが人口集団の健康にどのような意味を持つのかを理解するための枠組みを提供する。この概念は、研究、政策、実践が、デジタル技術へのアクセスや個人による利用だけに関心を限定するのではなく、デジタル環境の中での生活を形づくるシステム、誘因、インフラ、ガバナンスの仕組みをより広く捉える必要があることを示している。

デジタル変革が加速し続ける中、公衆衛生機関、各国政府、研究者、国際機関、市民社会、産業界のすべてが、デジタルインフラやデジタルシステムを、健康、公平性、人権、ウェルビーイングの向上に資するものとする役割を担っている。デジタル時代に健康を増進するために必要なのは、技術革新だけではない。現在と将来の世代が、健やかに暮らし、学び、成長できるよう、デジタル環境を意識的に形づくっていく取り組みも必要である。

シリーズ全文はこちら： https://www.thelancet.com/series-do/digital-determinants-of-health

健康のデジタル決定要因とは何か

本シリーズはDDOHを、デジタル技術を介したインフラ、事業モデル、設計上の判断、情報環境を通じて、健康とウェルビーイングに影響を及ぼす構造的条件と定義する。DDOHには、デジタル変革が作用する基盤となる社会システム、慣行、規則に加え、人々の健康状態が形成され、その分布が定まる過程に関わる世界規模の条件と人間の活動も含まれる。他の構造的な決定要因と同様に、DDOHは、さまざまなレベルで作用する権力関係、経済論理、ガバナンスの仕組みによって形づくられる。

免責事項

本概要は著者らから提出されたものであり、提供された内容をそのまま掲載している。査読は行われていない。『ランセット』の編集手続きが適用されたのは、本シリーズを構成する各論文のみである。